

第7回 杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会会議録（要旨）

会 議 名		第7回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会
日 時		令和7年4月21日（月）午後2時00分～午後3時54分
場 所		杉並区役所中棟4階 第2委員会室
出席者	委 員	学識経験者：深尾 精一 高口 洋人 阿佐谷地区町会連合会の代表：田中 昭一 杉並第一小学校通学区域内に存する町会の代表： 宇都野 正朔 佐藤 文夫 徳田 紀美子 杉並第一小学校学校運営協議会、学校支援本部の代表： 伴野 博美 岡田 円治 竹越 不可止 杉並第一小学校震災救援所の代表：近藤 浩 杉並第一小学校 PTA の代表：遠藤 美穂子 武田 幸彦 杉並第一小学校校長：山口 祐美子 杉並第一小学校副校長：杉田 英昭 懇談会委員 14 名（欠席 6 名）
	事務局	教育長：渋谷 正宏 学校整備・支援担当部長：高山 靖 まちづくり担当部長：吉見 紗 学校整備課長：安川 卓弘 学校整備担当課長：花岡 純子 拠点整備担当課長：鈴木 伸建 学校支援課長：中曽根 聡 防災課長：手塚 剛 学童クラブ整備担当課長：千葉 俊明 教育施設計画推進担当係長：岡本 智彦 株式会社日総建：櫻井 成行
傍 聴 者		15 名
次	第	1 開会 2 前回の振り返り 3 校舎配置プランの検討 4 閉会
資	料	資料 1 前回の懇談会等の振り返り 資料 2 校舎配置案ごとの特徴比較表 資料 3 校舎配置案ごとの特徴比較表（要点集約版） 資料 4 校舎配置資料（A～D：資料 4－A～D）

進行役	皆様、こんにちは。ご多用の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 ただいまから第7回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会を開会いたします。 年度が変わりましたので、当懇談会事務局でも人事異動がございました。自己紹介をお願いいたします。
	事務局自己紹介
進行役	ありがとうございました。 それでは、次第の2「前回の振り返り」です。事務局、お願いします。
学校整備課長	資料1をお開きください。前回ご欠席の方もいらっしゃいましたので、振り返りをさせていただきます。 まず、1番は、C案、D案のL型の校舎についても詳細を確認して決めていきたいといったご意見。 2番目につきましては、プロポーザルの選考の際にも、広い校庭となるA案の配置が評価されたポイントだといったコメントも頂いております。 3番ですけれども、A、B案を比較して、教室前のワークスペースの広さというご意見がございました。今回、A案、B案につきましても、平面図の中身を前回よりも精査しておりますので、その辺を後ほどご説明させていただきます。 4番、近隣への影響の配慮ということで、こちらも日影や音の問題、近隣への影響、今回もさらに精査しておりますので、これも併せて後ほどご説明をさせていただきます。 それから、5番、A案、B案とC案、D案で、C、Dはいわゆる昭和の初め頃の標準設計、片廊下型の校舎に近いのではないかとというご指摘。それから、どのようにその中で勉強していくかといったところが重要ということで、学校運営面、校庭の広さなど、多様な観点から整理をしていく必要があるのではないかとといったご意見を頂いたところです。 6番、7番は、水害の対策として、どちらも校舎については地盤面の高いところに配置するのが合理的であろうといったご意見を頂いております。 8番、9番は、土地の勾配についてご質問を頂きましたが、200分の1程度の勾配をつけるのが一般的なグラウンドの在り方でございますので、そういった意味では、今回だけ特別に傾斜をつけていることはないといったところも併せて前回ご説明をさせていただいたところです。

	2 ページ目を御覧いただければと思いますが、校庭、特に日当たりの関係に多くのご意見を頂きました。これにつきましては、C 案、D 案を含めて、資料 4 で整理をさせていただいておりますので、後ほどご確認いただければと思います。 それから、日照面につきましては、C、D がいいといったご意見、A、B のほうがいいといったご意見も様々ございました。また、学級菜園の日当たりなども重要だというところ。 それから、子どもたちは広い校庭が欲しいということがアンケートでも第 1 だったというところで、しっかりそれを重視していきたいといったご意見も頂いたところでございます。 それから、校庭の舗装、土、人工芝、様々ご意見を頂いているので、今後整理をしていきたいといったご意見を頂いています。 16 番から 18 番まで吹き抜けの関係ですけれども、これは様々ご意見を頂きましたが、いずれにしても安全面が必須であろうと。その中でどういった使い方ができるかというところを今後もう 1 つ工夫をしていったらというご示唆を頂いております。 それから、19 番以降は諸室の配置のことですが、特に給食室については、朝、食材の搬出入も含めて音が出るといったところ。それから、杉一の場合は音楽室や体育館で吹奏楽の活動が盛んなので、エレベーターの大きさ、配置について工夫をしてほしいといったご意見を頂いております。 22 番以降のその他というところで、22 番につきましては、やはり杉一の顔になる、思い出に残るような校舎も必要だろうといったところ。 そのほか、プールに関して、のぞかれないようにですとか、病院の関係では土壌汚染については今後もしっかりやってほしいといったご意見を頂いたところです。 簡単ですが、ご説明は以上です。
進行役	ありがとうございました。 それでは、ただいまご説明を頂きましたことで、委員の皆様からご質問や意見がありましたら挙手をお願いいたします。 それでは、次の次第の 3 に参ります。次第の 3 「校舎配置プランの検討」です。 事務局、説明をお願いいたします。
日総建	それでは、資料 2 から 4 について説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、お手元の資料２、校舎配置案ごとの比較表は、前回の懇談会の内容を更新したものです。表の赤文字が修正箇所を表しています。その修正箇所を含め、AからD、４案を比較する際の根拠資料が資料４となっています。

資料４は分量があるため、A、B、C、D案ごとにとじ込みを分けています。案ごとに比較して、校舎、校庭、近隣、水害・震災の４項目で大きくグループ分けをし、その内容を抽出してまとめたものが資料２の配置案ごとの特徴比較表です。

また、今回新しく資料３として、この資料２の要点集約版をご用意いたしました。こちらは、特に改築基本方針で方向性が示されていたものや皆様から頂いたご意見に焦点を当て、要点のみまとめて記載したものです。

今回、配置案の比較は、このまとめた資料３で最後にご説明いたします。比較に入る前に、この基礎情報となる詳細な資料４について、案ごとにご説明いたします。

それでは、資料４のA案を御覧ください。

まず、構成ですが、１から８ページ、両面刷りで、１ページ目が１階と校庭、その周辺です。２ページ目は２階と３階、３ページ目はその上の階、４階、５階になります。４ページ目は断面図で、５～７ページは前回同様のこま割の日影図です。冬至、春分／秋分、夏至の時点で作成しています。

最後の８ページは、区の水害ハザードマップと各案の敷地を校舎と重ねた図となっています。４案とも同じ並びです。

また、諸室、例えば普通教室、特別教室や職員室、体育館、学童の育成室などの広さや部屋数、いわゆる諸室の諸元を全て統一して、床面積を7,700～7,800平米に収めています。広さで異なるのは廊下や階段、一部のフリースペースとなっております。

それから、図の基本的な見方についてももう少しご説明します。

資料４のA案、１ページ目を御覧ください。図の下が病院で、土地の勾配は下のほうが高く、上のほうが低くなっています。四隅の道路の高さを楕円で囲み、一番低い右側の交差点をゼロとして、どれぐらい高低差があるかを示しています。

また、今回、校庭の定義を見直し、より有効に使用できる範囲に限定して再計算しています。図の赤い点線で囲んでいる部分を校庭としています。倉庫や緑地は除きました。遊具なども記載し、これは校庭に含め

ました。また、校庭の整備のため、車両通路なども書き込み、校庭からは除外しています。

トラックを横切る長方形は50メートル走路で、3つに分割された中央が50メートル、短い右下の端がスタートで、左上の長いほうが減速するエリアになっています。

なお、A案では、校舎と校庭の赤い点線との間に少し隙間がありますがけれども、これは敷地周辺に勾配があるため、高いところと低いところ、土地が二分され、校舎と校庭、段差解消のスロープや階段などを設けることが見込まれ、その部分の余白を確保しています。現在の杉並第一小学校の校舎から校庭に向けた出入口がある階段と同じイメージです。

それでは、A案で見直した部分についてもう少し説明いたします。

今回、1階に職員室などの管理諸室を配置するところは前回と同じですが、上階にあった特別支援教室は1階に、放課後の見守り場所として昇降口脇に多目的室、給食室の運用について、お隣に配慮して防災倉庫を間に挟みました。

学童の入り口を建物の右側に、校庭に面して育成室を並べました。また、エレベーターを体育館や給食室の脇に移すことで搬送動線に配慮し、地域連携の入り口の近くとします。

次、2ページ目、2階です。普通教室の前にワークスペースを設け、ジュニアバンドの活動に配慮して、体育館と同じフロアに音楽室を、学校開放、災害対応に配慮して、体育館脇に多目的室と学校開放会議室を設けました。

次、3ページ目、屋上になります。体育館の上にプールを移して、校庭の日なた面積を増やしています。

次に、4ページ目の断面図です。こちらで高低差が分かるようにしています。図の上の縮図、縦の赤線のA-A'の断面が上の図で、右手が病院側の校舎を土地レベルが高い位置に設け、校庭側が周辺になじませるように少し低くなった位置にあります。

横の赤線、B-B'が下の図で、校舎を長手に切った断面ですが、体育館の天井高さを生かしてプールサイドレベルを下げています。

次に、日影比較図です。5、6、7ページとあります。冬至、春分／秋分、夏至をご用意いたしました。今回、学校やすぎっ子クラブの活動の様子を見学した内容を基に検討した結果、校舎の形状も少し変わったため、日当たりも変化しました。また、日なたが重要だというお話も頂きましたので、図の右下に校庭の日なたの面積を記載しています。

A案は4つの案の中で最も校庭の面積が広がりますので、おおむね日なたの面積が大きくなりますが、校舎と病院の位置関係上、季節と時間帯においては一部そうでないときもございます。

最後に8ページ目、水害ハザードマップと校舎の配置を重ねた図になります。白抜きの部分が最も浸水しないエリアです。

A案は校舎の下のラインが白抜き部分にかかっていますが、ここに校庭を建てます。図の上に行くに従い、緑や黄色がありますが、ここはその分、土地が低くなっています。校舎の1階、床の高さは白抜きの部分と同じ、最も高い位置になります。

それでは次、資料4のB案を御覧ください。

Bでは、最初に4ページ目の断面図を見てください。前回からの変更点は、プールを6階に配置して、階段のように校舎を積み上げ、校庭側に乗せることで、北側の建屋にかかる日影の制限をクリアしながら、校舎の地盤面を建屋に接する北側の道路より少し上げた状態にしています。これにより、水害が発生した際に1階が浸水する高さを前回より改善することができました。ただ、想定される最大浸水深さで考えるとまだ不足しているため、ほかの案では必要のない止水板の設置などが必要になります。

それでは、1ページ目にお戻りください。

B案も1階に職員室などの管理諸室を配置いたしましたが、多目的室などを配置する余裕がありませんでした。また、校舎1階より校庭が1メートル近く高くなります。そのため、左手の正門から昇降口まではどうしても手狭になってしまい、まちとの関わりとなる広場を設けることが難しくなっています。

次に、2ページ目、2階、3階です。図の右肩の道路が校舎に迫ってくる分、校舎の幅が狭くなり、A案のように階段周りのスペースを取るのが難しく、ワークスペースが限られてきます。

次に、5、6、7ページの日影比較図に移ります。B案は、太陽に対し校舎が校庭の後ろにありますので、校庭の日なたは本来よくなる配置です。ただ、どうしても冬の日の高さの低い時期は病院棟の影がかかってしまい、特に午後にかけて影響が大きいことが分かります。これは、春、秋にかけて日が高くなってくると改善され、夕方でも校庭の日当りは良好になります。その代わり、校舎が住宅に囲まれた中に位置するため、特に冬至は4つの案で最も大きな影を近隣に落とします。

最後に8ページ目、水害ハザードマップの重ね図です。ここでは、断

面図のとおり、校舎 1 階床レベルが右上上の交差点付近、緑で表示されている辺りになります。このため、ほかの案が 1 階を図の下白抜き部分に合わせているのとは異なり、ハザードマップにあるとおり、浸水深さに対する備えが必要となってきます。その意味では、体育館が 2 階にあるのは救いになっています。

引き続き、資料 4 の C 案を御覧ください。

前回のように細長い校舎にすると、A 案と同じ部屋数が取れないことが分かりましたので、校舎の横幅を増やしています。このため、校庭が A、B 案より狭くならざるを得ませんでした。ただ、左手に伸びた校舎を道路に沿って曲げ、左上にあったデッドスペースを減らし、校舎の折れた部分から校庭に抜けられる場所を設けました。1 階はこの部分で学校と学童を分けています。これまで同様、1 階に職員室などの管理諸室を配置しましたが、多目的室などを配置する余裕はありませんでした。また、上階も同じになりますが、A、B 案に比べ長い校舎になる分、中央の廊下は狭く、ワークスペースの場所を確保することも難しくなっています。

次、2 ページ目、2 階と 3 階です。この案も体育館を 2 階としていますが、校舎の形状が道路に沿って造られるため、エレベーターは出入口そば、体育館や音楽室の近くに設置することができました。教室は成形で造る必要があるため、ワークスペースは校舎の曲がった、教室が配置しにくい場所に位置しています。

次、3 ページ目です。C 案の特徴は、校庭に面した東南向きの教室配置ができる点にあります。現状の小学校と同じ、中廊下タイプの平面形をしています。

次、4 ページ目を見てください。上の A' の断面図ですが、左の丸で囲んだ値は誤りなので、プラス 0.2 メートルに修正をお願いします。ここは、土地の左手の上、交差点に近い低い位置ですが、校舎右の病院側の高い位置から伸ばして建てるので、左上に階段状の段差ができます。この辺りの階段で学童に入っていくようになります。また、B-B' の断面図のように、校舎も校庭も道路から少し高い位置にあります。

次に、5、6、7 ページの日影比較図に移ります。C 案は、冬の日の高さが低い時期は北側に沿って近隣の住宅や校庭に影が出ます。ほかの案同様、病院の影がありますが、5 ページの冬至に限り、午後 1 時の校庭の日当たり面積は、校庭が A 案より狭いのですが、少しよくなっています。ただ、6 ページの春分を見ると、校庭が狭いこともあり、午後 1

時から 3 時にかけて校舎の影が伸びて日なたが 1,000 平米を大きく割り込んでいます。

最後に、8 ページ、水害ハザードマップとの重ね図です。ここでは、断面図にありましたように、校舎は白抜き部分の高い場所に合わせて造るので、浸水に対して校舎に特段の設備は不要になります。

最後に、資料 4 の D 案を御覧ください。

C 案同様、前回のように細長い校舎にすると、A 案と同じ部屋数が取れないことが分かりましたので、校舎の横幅を増やしています。このため、校庭が狭くなっています。また、右手の校舎側の道路は狭いので、左手のメイン道路からのアプローチを取り、昇降口を中央に配置しています。この部分で学童と学校を分け、そのほかはこれまで同様、1 階に管理諸室を配置しましたが、やはり多目的室などを配置する余裕はありませんでした。普通教室から特別教室が離れているのもこの案の特徴になります。

また、上階も C 案同様、通常の廊下と同じ幅であるため、ワークスペースの場所を確保することが難しくなっています。

次、2 ページ目、2 階、3 階です。この案も体育館を 2 階としていますが、エレベーターは建物の中央、昇降口近くで、体育館や音楽室の近くに設置することができました。全体的に C より手狭なため、特別教室を 5 階に配置する必要がありました。

次に、4 ページ目、断面図を御覧ください。

こちらは、土地の右上、交差点に近い場所が低い位置になりますが、校舎は右の病院側の高い位置から伸ばして建てるので段差ができ、階段で解消しています。

また、下の B-B' 断面のように、校舎も校庭も道路から少し高い位置になっています。

最後に、5、6、7 ページの日影比較図です。南の太陽から見て、校庭の手前に沿って長く校舎があるため、冬至の校庭の日当りは格段に悪くなっています。また、午後は北東側の住宅に長めの影が出ます。春にかけては改善していきますが、それでも 2,000 平米を超える時間はありませんでした。

最後に、8 ページ目の水害ハザードマップとの重ね合わせ図です。校舎は白抜き部分の高いところに合わせて造るので、浸水に対して校舎に特段の設備は不要になります。

それでは、資料 3 「校庭配置案ごとの特徴比較表（要点集約版）」を

御覧ください。

今回、各項目に「○」「△」「×」の３段階評価を追記しています。これは絶対評価ではなく、今回の敷地での配置各案を比較した際、改築基本方針で方向性が示されていたものや皆様から頂いたご意見を基準とした相対評価になります。

項目グループ分けは４つですが、一番下のマスが小さくなってしまったため、「防災」と書き換えています。

それでは、上から順に説明してまいります。

「校舎環境」の「階数」について。

B案のみ６階建てになって、ほかは５階建てになっています。階数が増えると廊下や階段などが増え、面積効率が悪くなります。日常的に子どもたちが上下移動する配置も好ましくないので評価を下げました。ただし、D案は５階に特別教室を配置する必要があるため、B案と同様「△」としています。

次に「ワークスペース」です。

子どもは改築基本方針の豊かな教育環境を目指したビジョン１の取組「多様な学びのスタイルに適応できる施設」について、普通教室の運用性を向上させるワークスペースをご提案させていただきました。

従来のような細長い校舎、階数の多い校舎は廊下や階段が多くなり、床面積の余裕がなくなります。このため、A案は全て普通教室の前に１５室ワークスペースを設けられていますが、それ以外の案では３個程度と大きな違いが出ていますので、A案では「○」、ほかは「×」としています。

それから、その下の「高低差」です。

前回、現杉一小も周辺道路との間に高低差があり、今回の土地も同様で、校舎や校庭を整備する際、高低差から来る不便の差を比べたものです。

B案以外は高い場所に校舎の１階を合わせていますが、校庭と校舎の高低差がB案以外は５０センチ程度で、階段で３～４段ぐらいです。現在の杉並第一小学校で、校舎中央の出入口から校庭に出る際に設けられた階段が４段です。Bのみ低い位置から校庭を見上げるような構成になって、９０センチぐらいの差があるため、Bだけ「△」としています。

次に「校庭環境」に移ります。

まずは「広さ」です。これは、改築基本方針のビジョン１の取組「広く良好な環境の校庭整備を行う」に沿って広い順に評価し、現在の杉並

第一小学校の校庭有効面積の 1.5 倍を大幅に下回った C と D は「×」としました。

次は「走路」です。こちらは、校庭の広さに関わりがある項目で狭くなってしまった C と D では 100 メートルトラックの整備が難しいため、A と B 案を「○」、C と D を「△」といたしました。

その次は「日照」です。これは校庭の日当たりの比較です。近隣環境の日影は住宅に落ちる影ですが、関連しますので、併せてご説明いたします。

前回、冬至の日影のみをご用意していましたが、今回は春分／秋分を含めて比較した内容となります。冬至に限ってみると、午前中は B 案が最も大きいのですが、その後、午後にかけて病院の影が伸びていって、日なたが失われていきます。

また、今回見直しを行った C 案は、冬至では午後 1 時の日なたが最も大きくなります。しかし、春に向けて午後の影の伸びが早くなり、ほかの案より日なたが減ると、必ずしもよいとは言える状況にはありません。それぞれ時期によって一長一短があるので、全て「△」としています。

近隣にかかる日影については、A 案は朝方に北西の一部住宅にかかるだけで、病院の傍らに校舎があることもあり、それ以外で近隣にあまり影がかかりません。しかし、C 案は左上に伸びた校舎が住宅に近いので、時間帯によっては北西から北東にかけて相応の範囲が陰ります。また、B と D は広い範囲に影響が出ていますので、C を「△」、B と D を「×」としました。

それから、校舎と校庭それぞれが近隣に影響を与えますが、逆となると影響もおおむね逆となる関係にありますので、校舎からの音、校庭からの音・砂ぼこりについては併せてご説明いたします。

A 案は、校舎の音では近隣住居への影響が少なく、「○」となりますが、逆に校庭の影響は住居側に向いているため「×」となります。B 案は A 案と真逆になりますが、音については病院との反響を考慮することから、「○」ではなく「△」としています。C と D 案は住居の方向が変わるだけで影響が見込まれる広さは同じで、A や B ほど偏らないことから、ともに「△」としています。

次に「街との関わり」です。こちらは今回新しく設けたもので、A と C 案は広場の整備が見込めるので「○」、B と D 案は難しいことから「△」としています。

	最後に「浸水対策」です。B案は1階の床レベルがほかの案より低く、止水板の設置など、ほかの案には不要な対策が必須となることから「×」とし、A、C、D案は「○」としました。 私からの説明は以上になります。どうもありがとうございました。
進行役	ありがとうございました。 それでは、たくさんご説明いただきました。今回は委員全員からお一言お一言頂きたいと思っていますので、順番に指名をさせていただきます。 こちら側から、委員からぐるりとお願いをいたします。
委員	ご説明ありがとうございました。何点か質問とご意見をさせていただきたいと思います。 まず、学校のプランの考え方ですけれども、大きくはA、Bが似ていて、C、Dが似ているということだと思います。この辺は教室の配置の仕方だとか、どういう使い方をするのかというところが一番大事なところになってくると思うので、想像ですけれども、これまで恐らく学校の先生だとか、そういった方々にも意見を聞かれてまとめてこられたのかなと思ったので、学校の先生方がどういうご意見があって、どっちのほうがいいと言っているのかみたいなのところがもし分かれば教えていただきたいと思います。 そのときに、どんな授業をしたいとか、先生方の思いもあるでしょうし、これからどういう学校になっていくのか、10年後、20年後、50年後を踏まえたときにどうあるべきかみたいなのところも、プランを決める上では当然大事だと思いますので、その辺でどういったご意見なのかなと思いました。 あと、プランに関して言うと、今のご説明は学校の教育に関するご説明を頂いたのですけれども、この会の中で何度か話題にもなっていると思うのですけれども、夜間もしくは休日も含めて、学校ではない使い方も将来的には当然想定されるだろうと思います。そういったものを今回のプランA、B、C、D、それぞれにどういうふうに工夫をして入れているのかというところを教えていただきたいというのがまず1点目の平面の計画についての質問です。 2点目、配置についてです。今いろいろ日影の関係、音の関係、周辺を含めた配置のご説明を頂きました。その中で一番大事なポイントにもなっている校庭を広くという観点で、A案が「○」となっているかと思います。C、Dは建物の形がこういう形なので、グラウンドが少

し狭くなってしまうのかなと思ったのですけれども、ほぼAとBは一緒だろうなと思いました。「△」になっていますけれども、70 平米しか違いませんし、拾い方次第かと思いますので、A、Bはほぼ一緒なのではないかなと思いました。

そのときに、敷地を見ると雪だるまみたいな、少し真ん中がくぼんでいるような敷地形状をしていますけれども、どっちかというところ下のほうが多分広いというか、上のほうが少し小さいのではないかなと思っていて、だからA案のほうは5階建てで収まっていて、B案が6階建てになって、少しコンパクトで高さをつけているということのかなと思ったのですが、だったら、Bのほうが校庭が広がるのかなと思いました。その辺、何で「△」になっているのかなと疑問に思いました。というのが2つ目の質問です。

3つ目ですけれども、この委員会をずっと聞いている中で、水害の対策について、建物をどう造るかというのは、多分、教育だったり、いろいろな使い方の話で決めることだと思うのですけれども、水害の対策は別にこの敷地の中だけで何かすれば解決する話ではなくて、周辺だとか街全体で考える話だと思うので、ここでどう造ったから周辺の水害が軽減できますということではないと思っています。そうすると、ここが避難場所に指定されているのであれば、その避難場所が安全に使えるものなのか、そうではないのかというところが論点になるのかなと思いました。

そういった意味でいくと、ちょっとハザードマップの見方を教えていただきたいのですけれども、これは現状の敷地レベルに対して水位がこれぐらい上がりますという資料なのかなと思ったのですけれども、そうであれば、今回、更地化して土地を平らに造るということであると、これが全くイコールの同じ色塗りになるものなのか、これが一旦クリアされてからもう一回設定されるものなのかがちょっと分からなかったのです。

いずれにせよ、建物を造る部分は1階のレベルを決めて構築していくわけですから、基本的には災害レベルに合わせた建物計画にすればいいだけであるので、どの案も避難場所としてどう使えるのかはあまり変わらないのかなと思いました。グラウンドとか、そういうところは多少影響があるかもしれませんが、敷地全体で1メートルぐらい高低差があるとなっていますけれども、恐らく全体で見ると1%もないぐらいの勾配かと思いますので、ほぼフラットなのかなと思いました。災害に対する

	今回の学校のクライテリアで、どのような避難場所として設定するのかという問題かと思いましたので、その辺を今どのようにお考えなのか教えていただければと思います。 3つになります。よろしくお願いします。
進行役	事務局、今答えますか。皆さんのを聞いてからにしますか。
日総建	では、私から。まず、校庭の評価で 2,700 平米と 2,630 平米でほぼ同じというお話ですけれども、現校庭の 1.5 倍というのが今まであったようなので、そこがクリアできていないのでちょっと評価を落としたというくらいで、これに関しては同じだと言えれば同じです。 あとは、B のほうが北側に校舎がある関係上、日影をかわすために 1 階の床が下がっているのです。かつ下にずれているのですね。頑張っって上に押し込もうとしているのですけれども、これ以上どうしてもいなくて。プールを畳んで押し込んでいるのですけれども、それでもうちちょっとだったのですが、1.5 倍の 2,700 平米はクリアできなかったということで変えています。 それから、学校開放のときどう考えるかというお話ですね。それは基本、A 案ですと、例えば 1 階の下の「教育相談」と書いてある緑の右下のところ、主事室もあるのですけれども、こちらが学校開放の入り口になって、ちょっとしたホールがあって、エレベーターが近くにあって上に行けますよというルートを通常の学校開放ルートとして考えています。 これを基本に、C とか D も同じようになるべく通用口から入って、近くという考え方でやろうとしているのですけれども、B 案だけプールを上を畳んでいる関係でどうしてもエレベーターが右のほうに入って、これを左にすると近くはなるのですけれども、上の階のほうで多目的室など特別教室のまとまりが減るので、今、奥のほうに入れることにしています。どうしてもプールを畳んだ関係で上の平面形が小さくなる制約があって、A 案よりは狭くなっています。
防災課長	資料 4 の A、B、C、D の一番最後の 8 ページのところにありますハザードマップの状況ですけれども、現状のままで校舎とグラウンドを配置した場合の重ね図で、この黄色、緑、水色につきましては、過去の水害の状況ですとか、地形、そういったものから算出した水害のハザード状況を、黄色でしたら 10 センチから 50 センチ程度、緑ですと 50 センチから 1 メートル程度、水色ですと最大で 2 メートルまでの水が出る可能性があるというものを示したものでございます。

	また、会長からご指摘がありました周辺の水害対策につきましては、この杉一小の改築とは別の時限で、当然、東京都、杉並区として、いろいろと対策を進めていかないといけないと思っています。現在第二桃園川幹線の工事も今東京都が進めているところでございます。 以上です。
委員	ありがとうございます。学校用途以外の使い方は、部屋は配置してあるけれども、使い方を含めてこれからということかと思いました。 もう1点、一番最初に質問させていただいた、今、先生方とどんな会話をされていて、どういったご意見をもらっているのか、もし分かればお願いいたします。
教育施設計画 推進担当係長	そちらは事務局のほうから。現在はまだ校舎の大まかな配置で、本来は平面図を書く段階にはありませんので、この部分については大きな違いがあるので、今、先生にお話をお伺いしても二重になるおそれがありましたので、細かい部分についてはまだお伺いをしていなくて、一般的な教室の配置をデフォルトで落としている状況でございます。
委員	状況をありがとうございます。今の段階で相談するのは確かにいろいろ難しいというのは分かりました。ただ、A、Bなのか、C、Dなのかというところは、教室の造り方みたいなのところの大きな判断材料になるのかなと思いましたので、可能なタイミングで意見交換していただければいいかなと思います。以上です。ありがとうございました。
進行役	では、委員、お願いいたします。
委員	ご説明ありがとうございました。 私のほうからは質問といいますか、「街との関わり」のところ「まちかど広場」というのがありますけれども、前回、前々回来られていなかったもので、どんな使い方をするのかなというイメージがあれば、改めて教えていただければというところと、併せて、結局これは学校ですので、私は保護者の視点に立ちますと、児童や先生方が一番長い時間を過ごす場所なので、皆さんが快適に過ごせる場所であってほしいなと思います。 その観点からいくと、校庭の日当たりがいいということも大切ですし、あと、近所の方たちから「小学校が移ってきてうるさくなった」とか、「日当たりが悪くなった」といういろいろなクレームが来ないように、子どもたちや学校を守ってあげられるような設計でぜひお願いしたいなと思います。 もちろん病院さんもお隣にあるのですけれども、子どもたちと地域の

	関係がこのままいい関係のままでいけるようにしていただきたいと思っています。 以上です。
進行役	ありがとうございます。委員、お願いいたします。
委員	私は、図面を見せていただいても、いかようにでも動かしてしまうので、実際、自分の頭の中に絵が浮かんでこないのですね。大変申し訳ないのですが、でも、皆さんの考え方を聞いていると、あくまでも想像としか受け止められないのですね。実際、建物ができた中で、その建物をどのように学校、あるいは地域とコミュニケーションを取りながら活用していく。そういう考え方で行ってほしいなという気がするのです。 さっきから映像で見せてもらったり、前もって資料を頂いても、立体感のものが自分の中に浮かんでこないのですね。今、自分は杉一小学校の近所にいて、杉一小学校のいろいろな行事、イベントに参加、あるいは協力しているのですが、雨天のとき、また災害のとき、それから防災訓練や学校、児童の校庭を含めての活動、そういったものも、ある器の中でどういう動き、行動ができるのか。それを見させてもらっているので、私からは、こうあったほうが良いという理想論だけではなかなか前に進まないのではないかと。そんな気がします。 自分としては今そんなところしか考えがありませんので、よろしくお願いします。
進行役	では、続きまして、委員、お願いいたします。
委員	私もなかなか浮かんでこないのですが、校舎の配置と校庭の配置に関しては、AかBで5階か6階とあるのですが、それは中身の関係もありますのでね。 あと、防災のほうで、どこの小学校も火災訓練とか、毎月ですか、やっているのは。それで、先生の指導の下に各教室から廊下に並んでそろそろ降りてくるのですが、今のところはエレベーターはないです。当然ですが、この絵ではエレベーターがありますけれども、使えませんから、階段を分けて何年生の生徒はこの階段を使って降りてくるとか、全体で集まってしまうと無理ですから、今、杉一小学校でやっているのは外階段と中階段を分けて、学年別に校庭に出て避難訓練をやっています。 それで、ちょっと見ているのですが、外階段は多分あるのでしょうか。それはこれから設置するのか、外階段なしでやるのか、その辺

	をちょっと心配していたのです。この図面を見てもちょっと分からないのですけれども、その辺のことを今は考えていないということですかね。避難訓練の、そこまでまだ。教室の配置が全部決まって、それからだと思うのですけれども、その辺も考慮してやっていただきたいのです。
日総建	今、A、B案は外階段ありで、オーソドックスなC、D案はみんな内階段という設定です。
委員	階段は何か所あるのですか。2か所ずつあるのですか。
日総建	はい。中に2、外にさらにプラスアルファして2、A、B案はですね。
委員	分かりました。以上です。
進行役	ありがとうございます。委員、お願いします。
委員	いろいろな評価をする前に根本的な問いかけが1つございまして、実はプールです。今までの小学校のプールの夏期の実績を見ますと、ほとんど使われていないのです。あまりにも気温が高すぎて、午前1回は使えたけれども、午後になったらもう駄目だとか、非常に無駄ですね。屋外にプールがあつて、当然、落ち葉や何やらでもものすごく汚れて、大掃除しますよね。夏休みに入る直前の1～2週間と夏休みが終わった後の1～2週間にあるのですけれども、有効に使われているとは見えない。非常にもったいないなと。 今回のどちらのものに対しても、屋上にプールを置いていると。同じことですよね。雨水が入って、年に1回は大掃除をする。それで、気温が高ければ使えないという状況、これは根本的にもっと考え方を改めたほうがいいのではないか。上に水を置いておくと防災のためにいいという考え方は分かりますけれども、あまりにも無駄ではないか。もっと既設のプールなり何なりを年間を通して利用することを考えたほうがよっぽど効率的だと僕は思う。これとは直接関係ない話として、提案というか、検討を頂きたい。 それから、A案、B案で、大きく固まってワーキングスペースが取れている、これは僕は杉二と桃二に見学に行かせていただいて見たのと、登下校の旗振りで高円寺学園に6か月行きましたが、ここも非常に大きなワーキングスペースがあつて、ものすごく余裕がありますね。生徒の動きにしても、行事に関しても。高円寺学園は中学生と同居していて、その1階の大きなワーキングスペースをうまく仕切って、卓球の練習もしたりするのですよね。こういう使い方ができているのはいいなと。それから、学童クラブの前に吹き抜けがあつて、晴れていると小さい子が先

	生と一緒に縄跳びをしていたり、使い方がものすごくいい。 あと、C案、D案は今までの学校と同じ感じですね。教室があつて、ちょっと狭い廊下がダーッと並んでいる。これの閉塞感というのは全然違うなという感じがしました。 それから、今、委員がおっしゃった、A案、B案は外階段があります。これは僕は非常に有効だなと思って見ました。内階段よりも、外階段で二方向から逃げられるというのはすごくいいなと思いました。というのが感想でございます。
進行役	ありがとうございました。委員、お願いします。
委員	私はあまり地図を見るのが得意ではないので、でも、こんなにいろいろな方面からきちんと示されるとさすがによく理解できて、ありがとうございました。 本当は地図だけではなくて、一番大事なのは明るさと消音のことだと思っているのですね。明るさの面では、現在は自然の光ではなくても、建物の建て方によっては明るさを取り入れることができるということで、それは結構なことだと思っております。 ただ、A案に大変「○」印が多いので、そちらのほうに行こうという気にはなるのですが、1つだけ、校庭の音が漏れやすいというところだけが問題になっておりますよね。これは周りに木を植えるとか、何かそういう工夫があるのでしょうか。それだけが気がかりで、子どもたちがオープンスペースの明るくて広い校舎で伸び伸びと活動できればそれに越したことはないのですが、騒音の漏れをどんなふうに解決するのか、それだけちょっと聞きたいと思っております。木を植えただけでは駄目なのでしょうけれども、それ以外はなかなかできませんよね。 以上です。
学校整備課長	ご意見、ありがとうございます。木を植えてというところもあるのですけれども、声の問題を抑えるといったところだと、例えば防音タイプのフェンスを透明の形にして、子どもたちの活動を地域の方に見ただけのような形で音を遮断するというやり方もありますし、その高さをどれぐらいまでやるかとか、そういったことは今回の場合は少し配慮しながら考えていく必要があるのかなと思っています。
進行役	ありがとうございます。 それでは、向かい側に移って、委員、お願いいたします。
委員	前回からきちんと対応していただきまして、ありがとうございます。前回の振り返りの19のところ、防災としてはどの案でも結構ござ

	いますので、特に意見はないですけれども、委員が先ほど言われましたが、先生方のご意見をといったところで、私の記憶ですと、前回、委員のほうからワークスペースの重要性だとか、委員からは給食室の配置だとか、あと委員からは人工芝に関する検討だとか、ご意見を頂いていて、そこは全体的に誠実にご対応いただいているような印象を私としては受けました。 以上です。
進行役	ありがとうございます。委員、どうぞ。
委員	すごく素朴な質問ですけれども、私が知らなければしょうがないのですが、この配置図の建物、A、B、C、Dをどこへ建てるのかなど。いわゆる土地は。元に戻ってしまいますけれども、A案なのか、B案なのか。この道路の状況を見ていると、相互通行、一方通行、一方通行、相互通行と書いてあるのですが、これはこの図面上の関係でこのような形で書かれているのか、あるいは決定した段階での案件がもう出来上がっているのか。いわゆる計画が進んでいるのか、進展しているのか。 この図面を見ると、先ほど委員がC、D案は今までのと同じだと言われましたけれども、例えばA、Bを見ていますと、私、素人だから申し訳ございませんが、Aは5階、Bは6階、C、Dは5階と書いてございますよね。建蔽率は何か制約があるのですか。 もっと言いますと、例えば先のことで申し訳ございませんけれども、現在の杉一の土地が開放されて、あそこに何か商業ビルが建つときに、その高さ制限、高度と、こういう学校教育の現場における学校の建物の建蔽率は違いがございますでしょうかということなのです。 くどいようですけれども、今、この図面に書いてある土地面積はAかBか、そういう疑問なのです。内容のことはある程度見て分かりましたけれども、どこへこの杉一を建てるのかということで、この絵面が私にはちょっと見えないものですから。ということが1つあるということですね。 それから、委員から意見が出た中で、これも前に戻って申し訳ございませんけれども、私は学校運営協議会の中でちょっとそれはまずいだろうと言われたことがありましたけれども、私は率直に申し上げたのですが、学校教育関係の方、小学校の生徒のご意見、学校の先生のご意見、そして一番大事なのは、さっき委員が言われましたけれども、地域の人々のご意見、これをずっと前に私個人の主観としてのご意見を述べさせていただいたのですけれども、それが全然見えていない。

例えば学校が向こうに移ると、ブラスバンドの音がうるさいとか、いろいろと言われたときにどうするのですかと。私は絶対ということはないと思うのですよ。パーフェクトはないので、移ってからトラブルが起こるなんていうことは、ここでの話ですけれども、やむを得ないと思っているとしても、そういうトラブルで問題が起きてはいけないからというアンケートをお取りになられたらどうですかというご意見をお話ししました。幾つか課長さんのほうからは、地域の方たちとコミュニケーションを取っていろいろおやりになったというお話は概略的には聞かせてもらったのですけれども、要はこの建物がどこへ建つのですかという。

私の意見だけ言っておきますけれども、これからの時代ですから、私が入るわけではございませんので、アンケートでみんながオーケーだったらよしとしなければいけないと思うのですが、地域の方にお伺いして、こっちへ移ってもいいよとか、そういう話の前提の中でこれが進捗しているのならばいいのですけれども、どうもこの前にもらったやつの絵面を見ても、私の頭の悪さからすると、A案だ、B案だ、C案だと。

くどういようのですけれども、C案、D案で悪かったら、どなたかが形は昔のものだよと言ったけれども、私、ここへ来たときに、どなたかに「あなただったらどういう建物を今のところに建てますか」と実は聞かれたのですよ。「国連みたいなものを建てちゃえばいいじゃないか」と。意味、分かりますか。国連本部みたいな高いのをどっちかに建てればいいではないかと。病院側が影になってもしょうがないよと。そういう案だってあるではないかということなのです。

L字型にする、U字型にする、面積が狭いということでもめるのではなくて、今ある場所のところでどのように造るかということで、私はそのように主観的な話をさせていただきました。国連本部なんか、面積がないから真っすぐではないかと。私、見に行きましたけれども。幅は分かりませんよ。というようなことがあるのではないのかなということをしちんとやっていかないといけないかなと思うのですね。ということで、この図面からはどこへ建つのがちょっと私には見えないものですから、申し訳ありませんが、Aなのか、Bなのかが決定的事項であるならば、そういうことも含みながら進捗していかないと間に合わないのではないのかなということも考えとしてあるのではないかな。

建築とかは専門家に任せばいいと。私も公衆衛生上の専門をやってきたものですから、それはそれで申しますけれども、建築家は建築家の専

	門でやらせればいいということで、建てる場所、それから高度面積。あそこ土地が空いたときに、商業で建ったならば、住民に対して言ったのかよということになってしまうといけないので、そういうこともしっかりと入れて、いい建物を建てていただきたいなと思います。 それから、プールのことに関しては委員から出ましたけれども、「地下に入れたっていいじゃないか」と言ったら、地下だと寒いとか云々と言っていましたけれども、地下に置いて暖房を取ればそんなに汚れないではないかと。もちろん立地条件があるでしょうけれども、そういう再考をしていくことがいいかなと思います。 私は小学生たちは体を鍛える、頭を鍛えるよりも体を鍛えるのが基本だと思っていますから。ということで、意見にはなりませんけれども、お教えいただければなと。別に即答でなくても結構でございます。 以上です。
進行役	事務局からお話はありますか。
学校整備課長	ありがとうございます。いろいろご質問を頂きました。 まず、道路の関係です。第1回のときに少し申し上げたかと思うのですが、この周りについては土地区画整理事業ということで、区、病院等とやっております、一方通行、相互通行というのはどのプランでも変わらず、それぞれの道路を拡張しながら基盤整備も併せてやっていくといった形でございます。 それから、周りの近隣の方のご意見は以前から委員からご指摘を頂いてまして、今回、どの配置案になるにしても移転ということで、近隣の方のご理解が大切だというのは本当にそのとおりかと思っておりますので、いずれの案についても早い段階から近隣の方にご説明申し上げて調整していきたいというのは、どの案になったとしても宿題として変わらないかなと思っております。 それから、プールのお話、先ほど委員からもございましたけれども、様々ご意見を頂いていて、他の自治体においても学校のプールを近隣と共用するであるとか、民間のプールを活用するであるとか、あるいは学校のプールそのものを中学校はやらないとか、いろいろ自治体がございます。ただ、学習指導要領からいっても、小学校のプールというのは安全のため必須なところもありまして、周りに行くといってもどこに行くのか。やらないというわけにもいきませんので、その辺りは区としても今検討しているところですので、そちらは今まだ結論は申し上げられないのですけれども、いずれにしてもプールは必要だという目線で進めて

	まいりたいと思っています。 それから、高さとか建蔽率のところは設計から補足が何かあれば。
委員	5階、6階ではなくて、10階ぐらいにしてみようという意味ですよ。 できるのか、できないのか。
日総建	地区計画というのを結んでいまして、今の杉一小は商業に近い、上に物が載せられるような制約ですけれども、今のここは国連のビルのようなものが建てられる制約になっていなくて、上に積んでしまえば都会の学校にはなるのですけれども、もともと小学校ということもあって、あまり上下移動させないように、なるべく校庭を広く取りながら、上の制約がある中で一生懸命収めているというのが実情です。
進行役	それでは、委員、どうぞ。
委員	これから50年、100年使っていこうという施設の計画です。土台をしっかり造ることが非常に重要ではないかなと思っています。敷地、土地に関して前回も申し上げたのですけれども、今日もちょっと申し上げたいし、お聞きしたいと思います。 この杉一の移転については本当に紆余曲折、様々な意見、大変強い反対もある中で、現在地から河北病院跡地へ移るという計画になり、今ここで懇談会も開かれているのですけれども、そのとき大変強い反対意見があったうちの1つは、病院の跡地の安全性は本当に大丈夫なのかと。その土地にどういう危険物が埋まっているのか本当に確認することができるのか。それに対する費用も時間もそれなりのものがかかるわけで、一義的には河北が責任を持って調査し、土地をきれいにした上で区に返上しますと聞いていますけれども、環境アセスメントをどのようにするのか。周辺住民並びにこの懇談会も含めてその計画をお聞きして、ちゃんと承認できるようなものが本当に行われるのか。ちょっと調べて、「大丈夫ですよ」「そうですか。ありがとうございます」で済むような話ではないのですけれども、それが今ここに出ていない。やがてそういう手順も区は考えていらっしゃるのだろーと思いますので、それはそれで1つ指摘をしておきたいのです。 非常に強い反対運動があったときのもう1つの理由は、土地が低いということです。水が出た歴史もあるような場所ということで大丈夫かという。どこでも、神社仏閣というのはその地域で一番いい場所に造られるのが通例で、阿佐ヶ谷でも神社仏閣に隣接したところに小学校が建てられています。明治初頭にこの地域の方々が、これからの日本を背負っていく若人の教育をする場所として、その地域では一番よい場所に小学

校を造ったんだと思います。

その場所から移転しようとしていて、危惧されているのが、水害です。私はこの懇談会が始まるまで、当然区は、土地が低いことに対して危惧をされている方も多いから、土地が低いことに対する対策は、皆さんが心配していただかなくても大丈夫なように当然万全を期しますよという基本的な姿勢、態度で臨まれているのだと思っていました。

けれども、前回もそうでしたし、今回もそうなのですけれども、どうもそうした姿勢が見えません。という意味は、ここは斜面にもなっていますので、基本的には一番高いところの高さに合わせて土を盛るんだと私は思っていました。それで、水平にする。水はけのため若干の傾斜があったりすることはあるかもしれませんが、基本的には平らな土地にして、その上に小学校を建てる。そうすると、低いほうは土盛りしないといけないわけですね。

もちろん校舎を建てる土地と校庭の土地を分けることができるのだったら、分かれてそれぞれ水平でも構わないのですけれども、いずれにしても水が出て困らないように土盛りをして、水平のちゃんとした土地を造って、その上に造るのが大前提なのかと思ったのです。今日も、例えばもしB案を採択すれば、その低いところに校舎を建てることになるので、水よけのものを造らなければいけないかもしれませんよと言うのだけれども、その心配がないように土盛りをして、水平な土地を造ればいいのではないかと私は思うのです。そういう発想が出てこないのはどうしてかなと思わざるを得ません。

何回も言いますがけれども、私はこの近隣に住んでいて、この地図の双方向と書いてある学校の北東面、ここは昔は道幅いっぱいのだぶ川だった所です。道幅いっぱいの川ですから、それなりの大きさの川だったのですよ。今、そこにふたをして道路にしているのですね。ですから、多分相当太い土管が入っているはずですよ。だから、そこに土盛りをして水平にするのだと思っていたら、土盛りは多少するのかもしれませんが、そんなたくさん土盛りをするという雰囲気でもなくて、それはお金がかかるからなのではないでしょうか。さすがにこれだけの強い反対運動を押し切っても低い土地に学校を持っていくのだったら、最低、水が出て大丈夫なぐらいの高さに土盛りをしないのかと。傾斜ですとか、低いことについてはちゃんと土盛りをして対応しますので、心配ありませんと一言表明があれば我々は安心するわけです。

もう1つは、水はけとも関連しているのですけれども、さっきも言っ

	たように、この北東の面は大きなどぶ川が下に流れているので、そこに向かって校舎の下、校庭の下に水はけのよい対応をすれば、水についてはそんなに心配がないのではないかと思います。最初の案では貯水槽も描かれていましたけれども、2回目以降、消えてしまいました。フェードアウトしてしまいました。あれは単なる見せ絵だったのですか。 中杉道路の下も貯水槽があるのかな。それから、環七の下も雨水対策の大きな工事がなされていますね。そのミニ版みたいなのが今度の計画の校庭の下に、造られても不思議ではないし、水はけという意味でもそうですし、水が出たときの雨水対策でもそうなのですが、そうしたものが何か消えてしまって、全然区からそうした発言が聞こえてこないのは、土盛りをすると予算がないので、限られた範囲の予算で造らないといけないから、お金がかかるからできないのですということなのか、そこについてお聞きしたいなと思います。 それから、2つ目は少しレイアウトに関してです。私、前も申し上げましたけれども、ここに移転することについて、私は個人的には移転そのものに反対しているのです。でも、もしここに移転するとすれば、この場所を選んだとすれば、選択肢はAしかない。これは自明なのです。そういう意見ですけれども、私はこのレイアウトで、前回もたしか委員からだったような気もしますけれども、吹き抜けはスペースが広くスペースをとっています。広い場所で校舎を作れるのであれば吹き抜けのプランもいいと思いますが、私はこれも前から申し上げているのですけれども、それよりもワークスペースを十分取るほうが優先順位としては高いのではないかなと思います。 A案の2階のところ以降、普通教室の前にワークスペースと書いてありますけれども、この今書いてある普通教室の大きさは、現行の杉並第一小学校の教室の広さと基本的には一緒ですか。
日総建	同じです。
委員	同じですね。そうすると、その前の廊下がWS（ワークスペース）と書いてありますけれども、これはとてもじゃないけれども、ワークスペースと言えるような広さではありません。少し広い廊下ぐらいです。 前はもう少しワークスペースが取られていたように思いますけれども、さっきどなたかもお話しされていましたけれども、私もワークスペースの活用はこれからの教育の中でとても大事なと思うのです。このA案で言うと、2階の白抜きのところが吹き抜け、それから3階はもっと吹き抜けが広がっていますけれども、これは少なくとも半分ぐら

	いに縮めていただいて、ワークスペースをきちっと取ってほしいと思います。 そうすると、吹き抜けがほとんどできなくなっちゃいますよと。私は、少し広めの螺旋階段にすると避難という意味でもいいと思いますし、昔から螺旋階段だと、一番上から一番下まで見通せたりしますよね。螺旋階段みたいなアイデアもあるのではないかなということを含めて、これもまだイメージの範囲ではあるわけですが、ワークスペースのコンセプトがすっかりしぼんでしまっているなど。やっぱりワークスペースはちゃんと確保してほしいなど。この2点です。
進行役	事務局から何か回答されますか。
日総建	B案が上がらない理由は、単純に日影の制限、建築の形態制限が北側に厳しくかかっている、かなり前回よりは上げたつもりなのですが、どうしてもこれ以上は上がらなかったということです。
委員	日照権ですね。
日総建	そうです。日影ですね。制約されるラインがありまして、ぎりぎりまで攻めても今のところが精いっぱいだったということです。 あと、雨水対策については、どの案に対しても所与のものだと思っていたので、今回の対象には入れていなかったということです。雨水貯留槽は入れてあるつもりです。
委員	雨水槽は造るのを前提にしてあるのですか。
日総建	そうです。
委員	次回でもいいのですけれども、まだイメージのものでもいいかもしれませんけれども。
日総建	忘れないように入れておきます。
委員	それから、私、そんなに専門家ではないのですが、ゴルフをやるものですから、ゴルフ場というのは当然のことながら水はけを非常に工夫して、一見してただ芝生があるみたいなコースになっていますけれども、掘ってみると管が通っていたり、非常に水はけを考えて造っているのですよね。そういう意味で、水はけも含めていろいろな対策があり得ると思うのですが、そういうものも次回示されますか。
日総建	校庭のグラウンドの水はけは、雨上がりにすぐ使いたいというご要望があるので、それなりの対応というか、詳細設計で対応するのですが、ご興味があるのであればお示ししたいと思います。
委員	ご興味というか、大事なことから。
日総建	分かりました。

委員	さっきも申し上げましたけれども、今の杉一のある場所だったら高台ですから、あそこはいいところなわけですよ。だけれども、今度は低いところ、基本的にははじめじめした場所に行くわけですから、水はけ対策はとても大事なわけです。 言葉がいいかどうか分からないけれども、業者としては所与の条件の下で造るのだと思っていたので、特に言及してありませんとおっしゃるけれども、だけれども、これは区のプランとして今ここで示しているわけでしょう。そうしたら、区の間がこういう点も考慮して造って下さいよと言わないといけないのではないですか。区は何をやっているのでしょうか。
教育施設計画 推進担当係長	申し訳ありません。今回、図面のほうをシンプルにまとめるために、そこまでまだ書き込めていない状態です。次回までに資料が間に合うように作成したいと思います。
委員	分かりました。 2点目について。ワーキングスペースと吹き抜けについて。
日総建	ワークスペースのご理解が大変あって、非常に心強いのですが、次また検討させていただきたいと思います。
進行役	委員、どうぞ。
委員	杉二小学校と桃二小学校の改築を拝見させていただいたことがあって、よくそこの比較みたいな話もいっぱい伺っていて、そのワーキングスペースがすごくいいみたいな話もありますが、そもそも学校があったところの建て替えなのですよ。だから、よりよいものを造りたいとか、校庭が手狭だったから少し広くしてほしいとか、そういうものとは全く違いますよね。皆さんが心配しているように変形した土地で、そこに移転して建てるのです。そう思ったときに、もともとある敷地の中に建てるにしても、いろいろなお考えがあったのだと思います。そのときは先生のご意見とか、子どもたちの意見とか、地域の意見を聞くことは有効かも分かりませんが、今回は全く異例のことです。 この土地も変形ですし、それこそ日影のことも考えていただけるのであれば、河北病院の日影は全くそのまま杉一にくるわけではないですか。そこのところも大前提で話を決めていなくて、こういう状況になったとしたら、今、A、B、C、Dという比較の問題で見れば、Aがいい、Bがいいと皆さんおっしゃっていますけれども、そもそもそういうところに学校を建てるということに関して、専門家の方たちのお知恵だとか、行政の方たちの教育に対する考え方だとか、そういう明確なものを

そろそろ見せていただかないと、大変申し訳ないのですがけれども、毎回同じことで細かなデザインの話にいつてみたり、土地の問題で土壌の話も全然進展がなく、いつもちぐはぐした話が進んでいるのはちょっと違うかなと思います。

A、B、C、Dを見せていただいて、こことここの違いはというのもありますけれども、いざその土地に子どもたちの学びの館ができて、子どもたちがどのような活動をするかは、さっき委員さんが建物のイメージが湧きませんとおっしゃいましたけれども、私は教育のイメージが湧きません。そのほうが大事ではないですか。

建物を建てたからそこを有効にどう使うかとはおっしゃっているけれども、それはそもそもそこに土地があった学校であれば、いろいろな諸条件を加えたよりよい教育のほうに、いろいろなデザインのことも考えて設計していただくことは容易なことではあります。でも、全く異例のことなので、もう少し時間をかけて専門家の方たちのお知恵を出していただいて、こういう場合はこういうものがあると。

A、B、C、Dの比較で、皆さんよくやっていただきましたとおっしゃるけれども、申し訳ないけれども、一長一短ですよ。Aがすばらしくて、これだったら絶対Aがいいなんて、申し訳ないけれども、言えませんもの。近隣の騒音も考えて、全てのことを考えたときに、これがすばらしい案だということは私は言えません。子どもたちが学んできたことに関してのいろいろな意見は言えますけれども、いろいろな課題があって、地域の方、杉一の関係者がこの土地にどうしても校舎を建ててほしいと言ったわけではないわけですから、もう少し真剣にもろもろのことを考えていただきたいなと思います。

積極的にいろいろなご意見が出て、そちらの方向に向かっていくのだったらなおのこと、この土地で校舎を建てるということに当たっての、委員もおっしゃいましたけれども、区の考え方だとか、教育に対する考え方みたいなことを先に話を聞いたほうが分かりやすいかなと思ってこれを見ておりました。

比較の問題だけではなくて、A、B、C、Dでどれを選べたって選べませんよ。一長一短ですもの。ですから、今後、これから発展していろいろなことを考えていくのであれば、イメージが湧かないとおっしゃった方もいますけれども、私も本当に教育のイメージが湧きません。建物のイメージはこれからのことであるとは思いますが、子どもたちが学びの館として使うことになるのであれば、もう少し教育というこ

	とを大前提にいろいろなことを考えていただくとありがたいなと思います。 以上です。
進行役	ありがとうございました。事務局からよろしいですか。
学校整備・支援 担当部長	委員のお話についてですが、我々も学校を移転するに当たって、ただ場所を移すだけということではなくて、杉一が今まで育んできた歴史だとか、皆様との関わりだとか、そういったところを大切にしながら移転を推し進めていきたいと考えております。阿佐谷のまちづくりの関係でいろいろありましたけれども、学校を移転することに関して、我々はきちんと考えてきたつもりです。 それは、区の思いからこうしたいということではなく、皆様からこの検討会を始めるとき最初にご議論いただいた改築の基本方針の中で、学校での教育、子どもを中心とした様々な教育が大切ですよということと、さらに、地域との関わりで、地域の学びのプラットフォームといったところの視点で、どういったことがこれからできるのかということを含めて整理してまいりました。また、ここの土地の問題もあります。災害、防災、防犯というところの安全性ということについても、私どもはきちんと整理を皆様としてきたつもりで、その結果が、「子どもたちが輝き、地域とともに学びを創造する オンリー1があふれる学びのプラットフォーム 杉一小」ということでまとめさせていただいたもので、皆さんと共有してきたところかと思っております。 今私どもが進めている改築の問題というのは、あくまでも皆様と整理した改築基本方針の内容を前提に進めているので、ぜひもう一度皆さんで議論した内容をご確認いただいた上で、今回出した資料をもう一度見ていただき、一つ一つのことを考えていただければと思っております。 以上です。
進行役	ありがとうございました。 では、委員、どうぞ。
委員	配置という観点でいろいろ見させていただいたのですけれども、まず、玄関の子どもたちが入ってくところは、できるだけ今の学校に近いところがいいかなと思っています。学区域を考えると、大分東側のほうに行ってしまうので、通ってくる子たちは恐らく多くは西のほうから、あるいは南、北のほうからなのですから、できるだけ近いほうが子どもたちにとっていいのかなと思っています。 あと、まちかど広場が設置できるということで、僕はまちかど広場と

	いうよりは、玄関の前にゆとりがあるのはすごくいいなと思っていました、何か子どもたちが集まったり、例えば校外学習から帰ってきたりするときになかなか集まる場所がないので、そこを玄関のところでちょっと集まれるとか、集合できるのは子どもたちにとってすごくいいなと。暑いと屋根のないところで集まるのはすごく難しいので、今本当に暑い日が多いので、ちょっと日影のところで集まれるスペースがあるのは子どもたちにとってすごくいいのかなと思って見ていました。 それから、外で遊ぶのが大好きな子どもたちにとって、校庭が広いというのは一番大きな魅力だなと思いますので、校庭が広いところがすごくいいなと思っています。 あと、音とかに大分ご配慮いただいて、具体的にいろいろお話をさせていただきながら、ご配慮いただいているなと思っています。先ほど委員がおっしゃっていましたが、子どもたちが伸び伸びと生活できる姿がすごく理想だなと思いますので、近隣の方に歓迎されて生活できるように配慮していく配置がいいのかなと思っています。 私、個人的には、この4つの中ではA案がいいかなと思っています。以上です。
進行役	では、私も話していいということでしたので、時間が迫っていてすみませんが。 本当にたくさんの方々が杉並第一小学校のこれからの子どもたちのためにいろいろなことを考えてお話をしてくださって、ありがたいなと思っています。 今年度卒業した6年生、今の中学校1年生の子どもたちは、アンケートの中で「人の役に立つ人間になりたい」という回答、100%そうなりたいと答えた子どもたちです。子どもたちがそのように答えた背景には、この阿佐谷の街の中でたくさんの方々に自分たちが愛され、お世話になってきた、それを還元していきたいということを学校教育を通じて感じてくれたものだ大変誇らしく思っています。そして、地域の方々も杉一のような教育活動にお力添えを頂いております。 この移転改築は大変大きな問題をはらんでいると私は感じています。区長がいらして、この場所に移転を決めましたとお話を頂いたときから、この土地にどのような校舎が建ち、どのような新しい教育活動ができるのだろうか、そのことに希望を持ちながら、今いる子どもたち、保護者はアンケート等に答えてきています。 卒業した6年生が卒業前にこんなことを私に言いました。「校長先生、

	自分たちはもう新しい校舎の中で学習することはないけれども、自分の子どもが通うかもしれないんだよね。自分が朝先生になって、この校舎で教えるかもしれないのですね」。子どもたちはこの新しい校舎に未来を感じ、卒業してもなお地域の者として自分たちとのつながりを感じています。 ですから、新しい校舎が建つときに、今まで培ってきた地域とのつながり、地域の中同士のつながりがどうぞ壊れることのないようご配慮を頂きながら、前向きにこういうことなら対処できるというものをご提示頂きたいと願っております。お時間、ありがとうございます。 では、委員からも頂いて、4時までには終わらせるというのが私のミッションでございますので、ご協力をお願いいたします。
委員	いろいろな議論があり、専門的過ぎて分かりにくいところもあったのではないかなと思います。 前回、それから今回を通じてやっている作業は、基本的にはボリュームスタディと言われる段階のもので、どこにどれぐらいの大きさの物を置くのか、それがまだ決まっていない段階ですので、その先にある、どういう中身を箱に入れていくのかというのもやってしまうと、話が発散してしまいます。どこにどれぐらいの大きさを置くのかをきちっと決めておくことが、前回、今回の会議としては重要なのではないかなと思います。 先ほど委員からもあった地盤面の高さの話がありましたが、僕もまだしっくりときていません。お伺いしたいのが、B案では6階建てになっているわけですが、要はA案に比べて、B案は建築面積、建物を建てる面積が小さくなってしまいます。建築面積が小さいので、建物の高さが高い。高さは北側からの高さ規制で抑えられているので、入れようとするすると深く掘らないといけない。周辺の道路からするとプラス・マイナス・ゼロ、4号線の高さで言うとプラスゼロとか、プラス 0.3 となっているように、地盤面が低くなる。それはもうどうしようもないという話なのかでしょうか。 道路から1メートルぐらいぐっと上げてしまえば安全性も高まって違う話になるのですが、1メートル上げてしまうと北側斜線に高さ規制に引っかかってしまうので、必要な面積が確保できない。ということになると、Bは致命的な欠陥があると理解できるのですが、その辺の説明がはっきりしていない感じがするので、時間があればその説明をもう一回最後にしていただければ、納得できるのではないかなと思います。

	それと、僕は環境が専門なので、もう1点問題があるのですが、仮にB案だとすると、河北とこの建物の間に緑道のような道ができるわけですが、大きな建物に挟まれることになるので、ビル風も吹くだろうし、うす暗いよねということになりかねない。それは別にA案でも同じなのですが、B案だと建物に校舎と病院に挟まれるので、風が強くなるかもしれない。どの程度その辺が予想されているのかというところも、腹案的なものがあれば説明を頂けると有り難いです。全体のボリュームスタディに関わってくる話なので。 以上です。
進行役	ありがとうございます。委員、お願いいたします。
委員	伺っていて、いろいろな立場でいろいろなご意見がある中で、今後どう進めるのか、なかなか難しいかと思いますが、私は、プロポーザルで選ばれた方で、その設計の能力に期待してやるということなので、いろいろな条件を総合的に評価して、どういう建築を建てたらいいかというのが建築屋の仕事ですので、基本的にはお任せしたほうがいいというのが僕の立場なのです。だから、A案がいいとか、B案がいいとは言わないようにしたいと思うのです。 いろいろな立場のご意見がある中で、1つ、この平面図みたいなものは、私は学生に対しては、壁の位置が書いていないのは区分が書いてあるだけで、建築の図面ではないとずっと指導してきたのですが、まだそういう段階の絵なのですね。これを見て建築をイメージしてくださいというのは絶対無理があるので、今の技術を使えばあっという間に立体的に見せることはできるのです。これも憶測ですが、それをしてしまうと、まだそんな段階までいっていないではないかというご意見も出てくるので、それが出てきていないのかなと。だから、あくまでもこれは参考ですが、立体的に見るとこうなりますよというのは少し出していただいたほうがいいかと思います。 ここの場合は、ここで判断するのではなくて、設計者が気がついていないこと、地域の方々しか分からないことを設計者に伝えることが一番の趣旨だと思います。設計がこうあるべきだということよりも、そういう条件の設計者が欠けているところをプラスにする。そういう意味では、前回、例えば給食調理室の位置はこうでないといけないのではないですかとか、エレベーターがこれではまずいでしょうという意見も出て、それはすごく今回反映されているのです。すごくよくなっていると思います。だけれども、まだその段階では実はないということもあると思

います。

私が一番すごくよくなったなと思ったのは、このまちかど広場と昇降口の関係が前回の図面と比べても、皆さんにはお分かりにはならないと思いますけれども、正門のゲートができて、それが屋根の下で、相当今までにない、さっきちょっと委員からお話があつて、委員は理解されているみたいですけれども、雨に当たらない大きな空間が前に用意されているのですね。多分皆様にはこの絵ではイメージできないと思います。だから、そのことぐらひは立体的に見せてくださることが必要かなと思います。もう少しスピードアップして進めていただいたほうがいいかなとは思いますが、そういう意味で、この懇談会の成果も反映されて進んでいるとは思いますが。

その中で、今度は私の個人的な意見ですけれども、これも三十数年間学生の設計指導をしてきたので、どうしても指導したくなってしまうということがありまして、本当はしてはいけないのですが、このA案にしろ、B案にしろ、学校だとかこういうものが必要ですよと、場所に物を当てはめている絵が出ているのですけれども、私が一番不満なのは、体育倉庫とか、倉庫とか、砂場とか、こういうものが必要で、こういうものは大体こういうところにあるだろうと、ポンと置いてある絵が出てきているのです。

これは立体的になって、持ち上がるのですね。ただ、学校の校舎に比べると、高さはすごく少ない。そうすると、本体とこのずらっと並んでいる体育倉庫はどういうふうに見えるか。周辺の住民の方々から、「あそこにずらっと倉庫みたいなのがあるんだけど、あれって学校なのかしら」という感じになって、とても私には許されない設計です。

こういうところを工夫すると、お金はかかりますけれども、例えば騒音の直達音の問題も完全にうまい形でふさぐことができるし、そのところがものすごく魅力的になる。僕だったら、この体育倉庫の上をちょっと芝生の丘みたいにして、そこに生徒たちが上がれて、そこから校庭で放課後遊んでいる人たちが見られるとか、そんな工夫だってできるのですね。お金があればですけれども、極端なことを言ったら、お寺の回廊みたいにくるぐるとこれで囲んでしまうと、また今までにないすてきが学校ができる。そういうことだって考えられると思います。

だから、僕はこのマルバツ表は嫌いなのです。こういうプロセスの上では、大体設計者はマルバツ表を作って、こうでしょうと言って見せるのですけれども、そういうことを超えて、校舎だけはかなり総合的に検

	討されているのですけれども、その附帯設備辺りを建築としてどう取り組むかということをぜひ設計者は知恵を絞って、今までにない魅力的な学校、学校の周辺環境との関係とか、そういう施設にぜひとも反映していただきたい。勝手なことを言いますけれども、それが私の意見です。以上です。
進行役	委員、ありがとうございました。何やら夢と希望が見えてきたような気がいたします。ぜひ次の回にお願いしたいと思います。 お時間も迫っているのですが、これだけはという方がいらっしゃいましたら。
委員	委員の質問に対して、事務局からご返事を頂かないと。
日総建	B案の建蔽率とおっしゃっていた……。
委員	建築面積ですね。建築面積がこの大きさに何でなっているのかとか、これ以上は建築面積は大きくならないのか。
日総建	単純に、Aと比べると敷地が取れるところが狭いので、それで小さくなっているのと、もう1つは北側の制約が大きくて、それで校庭側にどうしても寄ってしまうのですね。さっき6階にしたのは、北側の日影ラインをかわすために畳んで、こういう線をかわすために6階にしているので、いろいろやってみたのですけれども、これが限界かと。
進行役	再度のご指導はありますか。
委員	もうちょっと丁寧に説明いただいてもいいかなと思うのですけれども、分かりました。
日総建	校舎を北側にすると校庭が狭くなってしまうので、頑張って2,700取りたいと思ってすごく頑張ったのですけれども、お力になれず、すみません。
進行役	素人には分かりませんが、委員がうんとおっしゃっているので、そこで。 では、委員、どうぞ。
委員	マルバツがあればとか、ちょっと瑣末なことかもしれないですけども、防災の観点で言いますと、人工芝の話も出ていますし、土の話も出ていますので、そこら辺をどうするかは、もう少し判断できるような材料のご準備を次回辺りにお願いできればと思っています。 以上です。
進行役	ほか、ございますか。よろしいですか。 では、遠慮して言えない方もいらっしゃるでしょうから、この後のことについて事務局から説明をお願いいたします。

学校整備・支援 担当部長	まず、今後の日程については改めて事務局からお話をさせていただきます。今回、本日の会議に必要な資料だということで、新たな情報を追加して資料を出させていただきました。しかし、学識経験者2人の先生からのご意見などもお聴きすると、もっと資料の工夫が必要なのではないかな。まだ、なかなか皆様に理解をいただいている部分もあるのではないかな。一方、もう少し工夫をすればご理解いただけるのではないかなど私自身感じたところでもありますので、少し資料の作り方だとか、説明について、もっときちんとしてご理解いただけるような説明を、専門家であれば分からない説明ではなく、皆さんがご理解いただけるような説明の仕方もあると思いますので、その辺をしっかりとさせていただいた上で、もう一度議論をさせていただければと思っています。 皆さんのご都合もあると思いますので、日程調整を再度させていただきたいと思います。あまり長く時間を置かずにとということもありますし、また皆さんのご予定がつかないということもあるので、少し日程を調整させていただいた上で、改めてお時間を頂いて、ご議論させていただきたいと考えております。 校舎の中をどうするかという細かい話になると、配置は大きなところだと思っていますので、皆さんのご理解を頂いた上で進める必要があると考えております。いろいろ問題がこれからは多分ありますから、そのことについては一つ一つ、例えば教室のレイアウトだとか、技術的なことで解決できることもあるでしょうから、そういったところは皆さんでまた詳しく議論させてもらえればと思っています。少しお時間を頂きますけれども、もう一度議論させていただければと思います。
教育施設計画 推進担当係長	また、ちょっと先になってまいります、第8回の懇談会につきましては、現在、6月27日の2時から2時間ぐらいということで調整をさせていただければと思います。会場はまだ決まっておきませんので、また後ほど連絡させていただきたいと思いますが、先ほど部長からお話がありましたように、進め方についても1回事務局のほうで検討させていただいて、また懇談会の前の段階で、6月27日のご案内と併せてお知らせをさせていただきたいと思います。 私からは以上となります。よろしくお願いいたします。
進行役	ありがとうございました。では、次回、第8回に向けて事務局の資料作成をどうぞよろしくお願いいたします。 それでは、本日はこれにて閉会といたします。皆様のご協力、誠にありがとうございました。